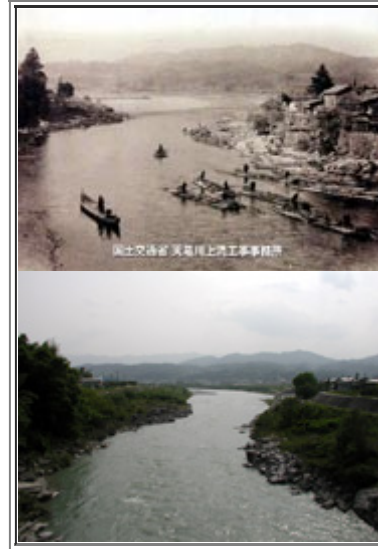


## 天竜川のこのごろ

記憶にも新しい昨年の「川の日」ワークショップ。グランプリ3チームのうちのひとつが国土交通省天竜川上流工事事務所（現 河川事務所）の「写真集 天竜川あの頃」でした。天竜川のむかしの写真を集めたこの写真集は大変貴重なものであり、川の写真をここまで集めたものは見たことがありません。さぞかしその収集には苦労したであろうことは想像がつきます。でもあくまで写真集はこれからの川づくりのための資料。今回のフォーラムでも発表がありましたが、「この頃」の写真を収集しはじめています。担当の平岡さんによると「なかなか画角とかアングルとか同じように撮るのが難しい。それに木が伸びたり、障害物があったりで同じものは撮れない。」とのこと。なかなか大変だな。



右の写真をご覧ください。上は写真集の表紙の写真、下は同じ場所で撮影したものです。セピア色の上の写真、にぎわいがあるいいですね。洲の出来方や水量、岸辺の岩の大きさなど当時との違いも見つかります。

## 日本の川は滝であることを実感する

上のセンテンス、日本の川を説明するのによく使われますね。普段、河口部というか海のそば



で暮らしている私にはいまいちピンとこないのですが、天竜川流域はまさにそれであると感じることが出来ました。まず支川の太田切川。（左写真）大きな石がごろごろと上流から流れてくるこの地点では周辺の農業公園と一緒に整備しています。落差工や護岸に自然石を使っていますが、「いかにも」的な感じがありません。ちなみにこの辺ではコンクリートを使うより現場調達の水石を使った方が安いらしいです。

天竜川本川に目を向けるとレク利用が多いことがわかります。駒ヶ根から下流に向かって移動していったのですが、カヌー、ラフティング、川下りと楽しみ方はいろいろ。その途中では川幅が狭くなったり広くなったり、山が迫ってきたり離れたりと変化に富んだ風景が楽しめます。橋の真ん中に立って上流側と下流側で全く違う風景を楽しむようなところもありました。流域に住んでいるひとによって「天竜川らしい」風景が違うというのもおもしろいところです。

## 天竜名物といえば

旅の楽しみといえばやっぱり「食」ですね。全国各地のワークショップやシンポジウム後の懇親会にはその土地の名物が出てくるものです。今回の交流会（懇親会）でもやっぱり出てきました、名物が。その名はザザ虫。トビゲラ、カワゲラ、トンボなどの幼虫のことで、川がザザと流れるようなところにいることからその名がついたということです。これを読んでいる方の多くの方はわかると思いますが、溪流で石をひっくり返すとくっついていて、そう、あの虫です。うわさには聞いて



いましたが今回初めて口にすることができました。イナゴの佃煮は嫌いじゃないのですがさすがにこれはなかなかグロテスク。あまり地元の方もすすんで食べているようには見えなかったのですが、箸で2、3匹つまんで口に運んでみました。「な〜んだ、普通の佃煮じゃないか」と思ったのは最初だけで、だんだん苦みとか渋みとかが口の中に広がってきます。イナゴのようなゴワゴワ感や蜂の子のような中からブニュッと出てくるような感じはありませんが、噛んでいる

と中に残った苦いものが少しずつ出てきて後味が口の中に残ります。確かに珍味です。



さてもう一つの名物の登場です。その名はソースカツ丼。どこか他の町でもこれを名物にしているところがあったような気がするのですが、駒ヶ根インターをおりるとすぐに名物ソースカツ丼の看板&のぼり旗。気合いが入っています。昼食時に入ったレストランでもそうですが、この辺ではカツ丼といえばソースカツ丼をさすとのこと。ウスターソースをベースにしていますが甘すぎず、辛すぎず、いい味でした。私は大盛りを注文しましたがさらさらと完食しました。（単なる大食いという

わさも）

### 天竜川のはじまり

駒ヶ根からの帰り道、天竜川のはじまり、諏訪湖を訪ねました。今回のフォーラムでの話題になっていましたが、お世辞にもきれいとは言い難い釜口水門付近の水でした。しかし、ここから太平洋までこの水が旅をしていくのかと思えばフォーラムが下流の静岡県まで広がっていくのは当たり前なのかもしれない、きっと来年は静岡県からの参加団体も含めてもっとたくさんの団体による交流が集まってくるんだろうな、と思いながら諏訪湖をあとにしたのでした。

---